

筑波大学新聞

第375号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

注目記事

- 武者塚古墳は方墳だった
- 太田教授 筑波大退職記念個展
- ラグビー 大学選手権4強入り
- 筑波大研修施設 手頃に宿泊
- 医学喫茶で窃盗未遂

11 10 8 5 2

特集

- 新たな舞台へ 6・7
羽ばたくアスリート
- ミニ特集 3
退職教員4人に聞く
教育者・研究者人生の軌跡

ヒューマンエンパワーメント推進局新設 構成員の能力発揮目指す

筑波大は今年1月1日付で「ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）」を設置した。マイノリティ支援を中心に取り組んできたダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（DACセンター）を発展的に改組した。大学の構成員全てが能力を発揮できる環境の整備やエンパワーメントを推進する大学文化の醸成を目指す。太田圭副学長（学生担当）が局長を兼務する。

DACセンターでは、セ二つを設けた。また、次長（副学長）を4人、業務推進マネージャーを3人配置した。ダイバーシティ推進（性的少数者や男女共同参画を支援）▽アクセシビリティ担当（障害者などを支援）▽キャリア担当（学生の就職などを支援）の3グループが活動してきた。一方、BHEでは局長の下に運営部門と企画部門の2つを設けた。また、次長を4人、業務推進マネージャーを3人配置した。運営部門はDACセンターが支援に取り組みできなかった分野（ダイバーシティ、アクセシビリティ、キャリア）と総務・人事、会計をそれぞれ担当する五つのチームが設けられた。企画部門は、「若手研究者のキャリア開発」や「障壁のある職員への合理的配慮」の推進などの課題を自ら設定し、BHE外の教職員も巻き込んだタスクフォースを編成して対応する。

（菅元愛香 心理学類2年）

睡眠の量と質 脳の別々の部位が制御

柳沢教授らが解明

筑波大の柳沢正史・国際統合睡眠医学研究機構長らの研究チームが、睡眠の量と深さは脳の別々の場所を制御されていることを、マウスを使った実験で突き止めた。また、睡眠を制御する分子の連鎖反応が脳内で行われていることも明らかにした。一連の研究は昨年12月、英科学誌ネイチャーで公開された。睡眠のメカニズムの一端を世界で初めて明らかにした研究として、大きな注目を集めている。（山田優芽 比較文化学類3年）

ヒトは誰もが眠らなくては生きていくことができない。しかし、なぜ睡眠が必要なのかは謎のまま。柳沢機構長らの研究チームは、マウスの遺伝子をワンダムに改変し、睡眠時間が極端に長い系統を樹立した。

脳内で働く「SIRK」という酵素が眠りの量や質に関わっていることや、シナプスで働いていることを明らかにしてきた。今回の研究では、これは別に通常の睡眠時間が長くなることを明らかにした。

これまでの研究で、SIRK3の働きは「LKB1」という別の酵素によって制御されることが分かってきた。これらのことから、研究チームはLKB1-SIRK3-Histon脱アセチル化酵素、という流れで睡眠の連鎖反応が起きていると考えた。そして、マウスを使った実験でこの流れが正しいことを確認した。

では、これらの連鎖反応は脳のどこで起きているのか。脳の脳皮質でSIRK3の働きを強めたところ、睡眠の質（眠りの深さなど）の指標となる脳波成分が増えたが、睡眠量は変わらなかった。一方、脳の視床下核でSIRK3の働きを強めたところ、睡眠量は増えたが、睡眠の質の指標は変わらなかった。今回の研究で、睡眠の質と量の違いが、気分や記憶力などにどう影響するのかなども調べたい」と話した。

柳沢機構長は「眠気は一つの物質で表現できるものではない。今回明らかにした一連の情報伝達経路



（2月3日、平砂共用棟C）

つくば歳時記

「とっても良い香り」小人になってマグカップに入ったみた入ったみた。平砂宿舎の湯船を満たしたのは熱々のコーヒー。節分の2月3日、賞味期限切れのコーヒー豆を使う豆まき、サザコーヒー筑波大学アリアンサで開かれた。豆は浴槽で抽出され、「コーヒー風呂」になった。抽出後の豆は肥料になるといわれる。天野隼太 比較文化学類3年、写真も

門の3分野を統括することが期待されている。BHEの所属人数は専任教職員34人、兼務教職員7人の計41人で、DACセンターより兼務教職員を4人増やした。更に2人の専任教職員を今年度中に迎える予定だ。また、BHEに所属しない教職員にも協力教員になってもらい、情報交換などを行っている。

太田圭局長は、「学生や教職員とのコミュニケーションを絶やさず、親しみやすい組織でありたい。個人」と抱負を語った。

「昨日はね、OBの〇ちゃんがお孫さんと一緒に来てくれて、昨日はね……」クラレットを営む宮下友邦さん（84）と民子さん（82）夫婦が「つくばの面観」と呼ぶ筑波大卒業生もいる。食事に加え、学生たちの日常生活にも、親身になって気を配ってきたからだ。

平塚通り沿いにある1978年開業の店舗（つくば市天久保）に足を踏み入れると、カーペットの上に丸テーブルが並び、これが、昭和の雰囲気というもののなだらかさ。

名物の肉天重の大盛りは1400円。700円。たつぷりのごはんの上に、特製の甘ダレがたっぷりかかった豚も肉サツマイモ、ナス、ピーマンの天ぷらが小山のように並ぶ。どんぶりだど

重くなるので、プラスチック製のお重を使っている。キャベツの千切りが山盛りの定食メニュー。余っていたかららしい。一緒に来ていたその友人が「つくばでしよう」と笑うと、民子さんは感動した」と返した。その一言に発奮した友人は、その翌日から東京・神田まで歩いて往復し、自慢気に報告にやってきました。

国内外で活躍するかつての常連さんから、色紙をもらったりのり多しいが、店内に掲げることほしくない。在学生のプッシュシャワーにならないようにと思つてのことだ。「活躍するかどうかに関係なく、これからできる限り、筑波大生を同じように迎え、送り出したい」と民子さんは語る。

訂正

374号1面サッカーW杯の記事で、大会の開催期間を「12月3～19日」としましたが、正しくは「11月20日～12月18日」の誤りでした。

軽食・喫茶
CLARET (クラレット)



宮下友邦さん（左）と民子さん（2月3日、クラレットの店内で）＝車谷郁実撮影

「子供預かる気持ちで45年」

「昔の学生は今より元気でもっと大盛りが出ていたよ」と、調理担当の友邦さんが笑う。例えは30年ほど前、浅草まで徒歩で往復したという学生がやってきたことがある。遊ぶ場所もなく、時間も

今年筑波大開学50周年。筑波大と共に歩み支えてきた人々の思いを届けたい。（本紙取材班）



名物の肉天重の多さは開業当時から遊ぶ場所もなく、時間も

国内外で活躍するかつての常連さんから、色紙をもらったりのり多しいが、店内に掲げることほしくない。在学生のプッシュシャワーにならないようにと思つてのことだ。「活躍するかどうかに関係なく、これからできる限り、筑波大生を同じように迎え、送り出したい」と民子さんは語る。

スパコン「ペガサス」 本格稼働へ 省エネ性能は世界最高クラス



試験稼働中のペガサスと朴教授(左)、建部教授(中)ら(昨年12月22日、計算科学研究センターで)

筑波大計算科学研究センターは昨年12月から新たなスーパーコンピュータ「Pegasus(ペガサス)」の試験稼働を始めた。電源を切ってもデータを保つ大容量の不揮発性メモリなどを搭載し、省エネ性能では世界トップクラスになる。ビッグデータ解析やAI(人工知能)研究に貢献することが期待されている。本格稼働する今年4月からは、他大学や企業など全世界のユーザーが利用できる。(加藤 雅二 生物学類1年、写真)

ペガサスはNEC(本社・東京都港区)が製造した。最新鋭のインテル社のCPU(中央演算処理装置)と米エヌヴィディア社のGPU(演算加速装置)、DDR5と呼ばれる超高速メモリと大容量不揮発性メモリを搭載している。費用は8億8000万円。費用は開発に携わった建部修見教授(計算科学研究センター)は「これら四つの組み合わせは世界で初めてで、消費電力を抑えつつ、処理能力を高めることができた」と語る。

演算性能は倍精度浮動小数点演算で1秒間に最高6500兆回で、同センターが2019年から運用しているスパコン「Cygnus(シグナス)」の約3倍だ。また、メモリ容量は同15倍になった。

抗生物質をアニメで擬人化 適正利用を啓発 芸専の演習授業

芸術専門課程の学生らが抗生物質の正しい使用法を啓発するアニメーション作品を制作し、2月3日に6A棟で発表会を開いた。同学群開設の依頼を受けた「ハイブリッドアート演習」の一環で、茨城県衛生研究所の依頼を受けてテーマを決めた。当日は同研究所や筑波大附属病院の医師らが作品を視聴した。今後、これらの作品は茨城県のホームページで公開される。(川上真生 社会学類1年、高元愛香、12面に関連写真)

芸術専門課程の学生らが抗生物質の正しい使用法を啓発するアニメーション作品を制作し、2月3日に6A棟で発表会を開いた。同学群開設の依頼を受けた「ハイブリッドアート演習」の一環で、茨城県衛生研究所の依頼を受けてテーマを決めた。当日は同研究所や筑波大附属病院の医師らが作品を視聴した。今後、これらの作品は茨城県のホームページで公開される。(川上真生 社会学類1年、高元愛香、12面に関連写真)

授は「国内外の計算科学やAI研究をリードする存在になると期待している」と話した。

風邪で体調を崩した人が抗生物質を服用しようとすると、「おじさん」が「抗生物質は風邪に効かない」と話し始める。そして「ウイルスには歯が立たない」と言いながら入れ歯を落とす。作画を担当した福田さんは「油絵真風のタッチで親しみやすい世界観を意識した」と話した。作品を視聴した喜安講師は「抗生物質や病原菌を擬人化させるアイデアは、医療従事者からなかなか出てこない。斬新な啓発動画だった」と話した。また、村上助教は「社会で起こっていることを視覚的に表現し、広めていくことが授業の意義を語った」と話した。

武者塚古墳は方墳だった 筑波大など 40年ぶり再調査で円墳説見直し

古墳時代の結った髪や大刀などの豪華な副葬品が見つかっていた武者塚古墳(茨城県土浦市上坂田)は、これまで推定されてきた「円墳」ではなく、ほぼ正方形の「方墳」だった。筑波大と同市教育委員会が昨年12月に実施した合同調査で判明した。調査を指揮した滝沢誠教授(人社会学)は「周辺の7世紀の古墳は方墳が主流で、この古墳もその流れと矛盾していないことが分かった」と、調査の意義を語った。(中谷美稀 人文学類1年)

同古墳は7世紀中頃の造る唯一の資料となっている。銀装の装飾付大刀や帯の増田精一教授(当時)らが初めて発掘調査した。石室は未発掘で、その中から6人分の人骨や3人分の頭髪が見つかった。中でも結んだ髪は「美豆良」は全国初の発見で、今でも古墳時代の髪型が分か



周溝の発掘作業をする筑波大生=滝沢教授提供

年に滝沢教授らが地中のレーザー探査を実施したところ、周溝が円形ではなく直線的である可能性が浮

上。古墳の形態の再検討が必要となっていた。筑波大は今回の調査を天学の考古学実習と社会貢献プロジェクトの一環として実施し、学生約25人が参加した。調査では古墳の北西部を掘り起こし、直線的な周溝が見つかった。一辺が22・23メートル

だと結論付けられた。約40年前の調査にも学生として参加した滝沢教授は「武者塚古墳はその形や豪華な副葬品から、やや異なる古墳存在であることがはっきりした」と話している。

ロボットが商品配送 初の実用化

楽天がつくば駅周辺で

楽天グループ(本社・東京都世田谷区)は昨年11月から、つくば市のつくば駅周辺で自動配送ロボットを使った商品配送サービスを本格運用している。同5月から土曜日限定で運用してきたが、実施日、対象地域、取り扱い品目を拡大した。公道を使いスーパーマーケットの商品を最短30分で届ける自動配送サービスの実用化は国内初という。ただ、商品の配送元の西友つくば竹園店は3月末に閉店



荷物を運ぶ楽天の自動配送ロボット(1月22日、つくば市竹園)

と見られていた。しかし、方墳と判明したことで、地域の動向と歩調を合わせた存在であることがはっきりした」と話している。

市内(吾妻1丁目、2丁目、4丁目、竹園1丁目、3丁目)の一部のマンション、戸建て住宅、オフィス、公園・広場で、従来の同駅周辺約1000世帯から大幅に増やした。夜間や雨の日も含め毎日配送できる。限定運用時の配送元は西友つくば竹園店、2月6日から駅近くの「Beer & Cafe Engi」が加わった。スターバックス、トナリエキョウトつくば店も昨年未だに配送元になっていたが、サービス改善に向け、現在は配送は一時休

止中だ。利用者はスマートフォンを使い、専用サイトから注文する。サイトでは配送中のロボットの位置や到着予定時刻を確認できる。到着時は自動音声電話やショートメッセージサービス(SMS)で知らせが届く。ロボットは米国の企業が開発し、三菱電機(本社・東京都千代田区)が国内向けに調整した。

つくば市は昨年4月に政府の「スーパーシティ型国家戦略特別区域」に指定された。先端的なサービスの社会実装などを目指す「つくばスーパーシティエンス」の構想を掲げており、今回の配送サービスはその実現につながるものだ。楽天の担当者は「つくば市と協働し、誰もが安全、便利で快適に暮らせる持続可能なまちづくりに貢献し

たい。ロボット配送サービスは、高齢化や配送の担い手不足に伴い、今後必要が拡大する見込みだ」と話している。(衣笠有紀 心理学類2年、写真)

深井助教(人社会学)は「筑波大の深井太平洋助教(人社会学)は昨年12月26日、「保育政策に関する実証分析」経済学による近年の研究結果から」と題したオンライン講演会を学内外向けに行った。保育に関する政策介入が、保育士の賃金にどのような影響を与えたかを、日本や米国の事例を挙げながら解説した。講演会は、政治的不平等を主要テーマとした筑波大の研究プロジェクト「格差・

米国では、保育士の配置や資格取得の基準が州ごとに異なる。その違いを利用した研究では、保育士の資格や配置の基準を強化すると、コスト増などで、結果的に保育士の賃金は低下するという報告もあるという。深井助教は「政策を実施する際は、個別の事象だけに捉われず、全体像を頭に入れた上で行う必要がある」と話した。(島崎翔 医学類5年)

1920年の創刊以来、東京大学の「今」を発信し続ける

東京大学新聞

新聞は2021年4月より「月刊タブロイド判」にリニューアルいたしました

新聞 1号ごとの購入は <https://utnp.stores.jp>へ 1号24ページ500円～

最新の学術動向から身近な学内トピックスまで、東京大学から発信されるニュースをお届け。就職、大学院、受験、資格、入試等、テーマ別の特集号を、増刊含む年間13回発行いたします。

出版 全国の書店およびAmazonで好評発売中!

現役東大生がつくる東大受験本 **東大2023 東大等身大** 税込1,650円
サーギル博士と巡る **東大哲学散歩** 一場の地理的解釈に向けて 税込1,320円

新聞の定期購読のお申込みは、郵便振替でのお手続きをお願いいたします。下記メールにてご住所、ご氏名、ご連絡先をお知らせください。専用の払込取扱票をお送りいたします。

購読料金(送料・税込) 1年間(13回予定) 7,400円 / 2年間(26回予定) 14,400円

公益財団法人 〒113-8691 東京都文京区本郷7-3-1 東大構内 E-mail post@utnp.org
東京大学新聞社 東大新聞オンライン <https://www.todaishibun.org/>

不正対策も徹底
大学入学共通テストが1月14、15日に行われた。1日目は「地理歴史・公民」「国語」「外国語」が、2日目は「理科」と「数学」が実施された。筑波大も会場となり、受験者が最も多かった「外国語」では、5917人が受験した。新型コロナウイルス感染

退職教員4人に聞く 研究者・教育者人生の軌跡

総合大学として多彩な学問分野に触れられる筑波大。今年も、研究者・教育者として活躍してきた多くの教員が定年退職を迎える。4人の教授にこれまでの歩みを聞いた。(中谷美稀II人文学類、天野隼太II比較文化学類、修其志II社会学類、福澤航介II生物資源学類)

歴史を 足元から問い直す

専門は日本史と歴史教育。満州移民や1930年代に展開された郷土教育運動など地域の視点から、アジア・太平洋戦争を見つめてきた。2014〜19年度は大学院人文社会科学研究所の歴史人類学専攻長、20〜21年度では比較文化学類長を務めた。



伊藤 純郎 教授 (人社系・日本史学)

長野県の山村出身。小・中学教員だった父の影響で、自身も高校の社会科教員を目指した。同県では東京教育大(現・筑波大)出身の教員が多く、進学先はおのずと筑波大に決まったという。

アジア・太平洋戦争 見つけ続け

入学後は人文学類、日本史を専攻。卒業論文は茨城県沿岸部の漁民生活史をテーマにした。同地域出身の青年たちが、政府の要人が立て続けに暗殺された1933年の「血盟団事件」に深く関わっていたと知り、事件を地域の視点から調べる中で「郷土を基軸に国家や時代状況を考察したい」という思いを抱いた。

卒業後は、開校3年目の1933年の「血盟団事件」に深く関わっていたと知り、事件を地域の視点から調べる中で「郷土を基軸に国家や時代状況を考察したい」という思いを抱いた。

卒業後は、開校3年目の1933年の「血盟団事件」に深く関わっていたと知り、事件を地域の視点から調べる中で「郷土を基軸に国家や時代状況を考察したい」という思いを抱いた。

卒業後は、開校3年目の1933年の「血盟団事件」に深く関わっていたと知り、事件を地域の視点から調べる中で「郷土を基軸に国家や時代状況を考察したい」という思いを抱いた。

卒業後は、開校3年目の1933年の「血盟団事件」に深く関わっていたと知り、事件を地域の視点から調べる中で「郷土を基軸に国家や時代状況を考察したい」という思いを抱いた。

卒業後は、開校3年目の1933年の「血盟団事件」に深く関わっていたと知り、事件を地域の視点から調べる中で「郷土を基軸に国家や時代状況を考察したい」という思いを抱いた。

映像メディアの 転換に注目

専門は映像メディア論。映画、テレビ、インターネット動画それぞれの特性比較や映像アーカイブに残る映像資料の調査と活用などに取り組んできた。



辻 泰明 教授 (図情系・映像メディア論)

中学時代はオーディオ少年で、東京の電気街・秋葉原に足繁く通った。高校も理系を選択したが、フランスの映画監督アラン・レネの映画監督アラン・レネの五年マリエンバートを見たことをきっかけに、時間と空間を自在に操る映画の力に興味を引かれた。当時、映像研究では仏が先端という風潮があり、大学ではフランス文学を専攻することを決意。東京大文科三類に入学した。

1981年夏にフランス政府給費生として、フランスに短期留学。イラン革命後の不安定な世界情勢の中、パリ郊外の留学生宿舎で各国の学生たちの多様な考え方や出会った。「早く作品を作りたくなった」と当時の心境を振り返る。

卒業後はNHKに入局し、ディレクターやプロデューサーとして『映像の世紀』や『その時歴史が動いた』など番組制作の第一線で活躍した。2000年代半ばになると、制作現場を離れ、デジタルコンテンツの開発や番組のインターネット配信業務などを担当した。

筑波大着任は2015年。映画、テレビ、インターネット動画といった、それぞれ異なる特性を持つ映像資料の調査と活用などに取り組んできた。

「多くの優れた教員や学生事務の方々と出会うことができた。かけがえのない経験だった」と語る。

今後は「映像アーカイブの国際比較」や「遠隔授業用動画制作手法の開発」など日本学術振興会の科研費を受けた研究は続ける予定だ。「映像メディアは今、劇的な変化が起きていて、新しいものが次々と出てくる。退職後もその動向に目を向けた」と話した。

小学3年時から剣道を始め、小学5年時には市内の小さな大会で優勝できるようになった。

高校は進学校で剣道の強豪でもある県立長崎東高校に進学。高校3年時に全国高校総体(インターハイ)で個人優勝を果たした。当初は高校の先輩が多かったが、「指導者になるなら筑波大だ」という先輩の言葉に背中を押され、体育専門学群の扉をたたいた。

入学して驚いたのが、稽古の質の高さだ。「競技力の向上に加え、真っすぐで正しい剣道が身に付いた」と振り返る。それが競技を通して人間形成を図るという神髄を知る、指導者としての剣道にもつながった。

卒業後は地元の長崎県で小学3年時から剣道を始め、小学5年時には市内の小さな大会で優勝できるようになった。

留学契機に言語学の道へ



香田 郡秀 教授 (体育系・剣道コーチング)

文法変化の理由 解明に取り組み

専門分野は言語類型論と生成文法理論。8世紀から16、17世紀にかけての日本語の文法が、歴史的にどのように変化してきたのかを研究してきた。

増玉真出身。中学校・高校を女子校で過ごしたが、共学への憧れから慶應義塾大文学部史学科に進学した。勉強以上にテニスサークルでの活動に打ち込んでいたという。

大学4年生で卒業レポートに取り組んだことで、研究の楽しさを知る。卒業後は米国オレゴン大に語学留学した。

その後、同大修士課程に進んで言語学を専攻。同大で言語学の概論の授業を受けた。出会った教員、同僚、調査先の人などとの出会いがかけがえのない財産になっている。退職後もしばらくは、大学院生の指導を続けたいとほほ笑んだ。

海外生活では日常会話とは異なる。日本語を通して文法変化がなぜ起るのかという理論的課題に取り組んでいる。

高知大と比べ学生数や担当授業が多く、忙しかったものの、研究に向き合う周囲の教員の真摯な姿勢や活躍が研究を後押しした。

自らの海外経験も踏まえ、チャレンジ精神を大切にしたい。できるかなと不安に思うくらいの高目標や夢を持つて、「筑波大生にエールを送る」。

「また、退職後の行方を考える余裕がないが、これからも研究を続け、言語学の発展に貢献したい」という。

退職後も続く映像研究

退職後も映像研究を続ける予定だ。「映像メディアは今、劇的な変化が起きていて、新しいものが次々と出てくる。退職後もその動向に目を向けた」と話した。

卒業後は地元の長崎県で小学3年時から剣道を始め、小学5年時には市内の小さな大会で優勝できるようになった。

卒業後は地元の長崎県で小学3年時から剣道を始め、小学5年時には市内の小さな大会で優勝できるようになった。

記者の声



北川 瑠菜

誰にでももある「ガクチカ」 信頼できる相談先見つけて

コロナ禍の就活

年が明け、2024年春卒業予定の学生の就職活動が本格化している。就活の第一関門となるのが、企業に提出するエントリーシート(ES)だ。これが通らなければ、面接も次のステップに進むことができない。後輩たちと話をする、ESの大きな要素である「学生時代の力を活かした」という声がよく聞かれる。無理もないと思う。今の3年生は、大学生の中で

「サークルやバイトなどに限らず、頑張ったこと、そこから学んだことを言語化することが大事だ」と指摘する。ただ、心配なのは、今の3年生には、サークルやバイト先の先輩など、縦のつながりが少ない学生がいることだ。「SNS(ネット交流サービス)など匿名で公開している。つてがなぐてもこうした情報を利用すれば、OB・OG訪問ができる。先輩たちは、後輩を温かく迎えてくれるはずだ。」

自分一人で悩みを抱えず、大学の支援チームなど信頼できる機関を活用し、就活を経験した先輩や卒業生とのつながりを作ること。そして、積極的に相談することが内定獲得の近道だ。私の場合、志望業界で内定をもらっていた先輩や卒業生に連絡し、企業情報を聞いたり、ESの添削や面接の指導をお願いしたりしていた。就活経験者の客観的な視点から意見をもらう

筑波時評

2022年12月、カナダのモントリオールで国連の生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)が開催された。会議の目的は、生物多様性の現状を把握し、今後必要な取り組みについて、各国が共通の目標やルールを定めることにある。

生物多様性(Biodiversity)とは、地球上に存在するあらゆる生命の多様性のことを指す。具体的には、遺伝子、種、生態系と三つのレベルがあり、長い系と三つのレベルがあり、長い

進化の過程で育まれた各地固有の多様性を守り、賢明に利用していくことで、その恵みを持続的に享受していくことが求められる。しかし、生物多様性の現状を把握し、今後必要な取り組みについて、各国が共通の目標やルールを定めることにある。

肉、花、葉、発酵食品と生物多様性に由来する商品が自国産品である。私は一度、近所の店で実際に何種類の生物が売られているか数えようとしたことがある。しかし、入り口から少し歩

は、生物多様性の恵みであふれている。例えばスーパーに買物に行く。すると野菜、魚、肉、花、葉、発酵食品と生物多様性に由来する商品が自国産品である。私は一度、近所の店で実際に何種類の生物が売られているか数えようとしたことがある。しかし、入り口から少し歩

佐伯いく代 准教授 (保全生態学)



生命環境系・准教授。東京農工大学院修了。博士(農学)。北海道大特任助教を経て、2014年筑波大に着任。大学院自然保護サーティフィケートプログラムを担当。

「サークルやバイトなどに限らず、頑張ったこと、そこから学んだことを言語化することが大事だ」と指摘する。ただ、心配なのは、今の3年生には、サークルやバイト先の先輩など、縦のつながりが少ない学生がいることだ。「SNS(ネット交流サービス)など匿名で公開している。つてがなぐてもこうした情報を利用すれば、OB・OG訪問ができる。先輩たちは、後輩を温かく迎えてくれるはずだ。」

自分一人で悩みを抱えず、大学の支援チームなど信頼できる機関を活用し、就活を経験した先輩や卒業生とのつながりを作ること。そして、積極的に相談することが内定獲得の近道だ。私の場合、志望業界で内定をもらっていた先輩や卒業生に連絡し、企業情報を聞いたり、ESの添削や面接の指導をお願いしたりしていた。就活経験者の客観的な視点から意見をもらう

反射鏡

防衛費増額どう考える

政府は昨年12月、「反撃能力(敵基地攻撃能力)」の保有を明記した安保関連3文書を閣議決定した。これまで専守防衛を貫いてきたが、場合によっては国際法上の先制攻撃を加えることも可能になる。合わせて来年度から5年間の防衛費を現状の1.5倍程度に増額し、増税をその財源とする方針も示した。日本の防衛政策の転換点となる一連の決定を筑波大生はどう捉えているのか。中央図書館前などで聞いた。

【川上真生 社会学類1年、加藤緑 生物学類1年】

【応理P前期2年・男性】 している。

【資源4年・女性】 防衛費増額には反対だ。具体的な使い道を示してほしい。増税が、別の財源に使用されるのは許容できない。増税が、別の財源に使用されるのは許容できない。増税が、別の財源に使用されるのは許容できない。

【人文2年・女性】 反撃能力の保有に反対だ。専守防衛が守られているから、日本は一線を越え

【社工2年・男性】 群馬から親と一緒に車で来て、土浦のホテルに前泊した。過保護だとも思ったが、親とたわいもない会話をすることで、普段通りの精神状態を取り戻せた。夕食を取った後はすぐに眠ってしまった。余計な緊張をせずに済んだので、これから受験をする皆さんにもおすすめしたい。

【比文3年・男性】 推薦入試組で、2日間の日程だった。1日目の出来が悪くホテルから親に電話し、絶対落ちたと泣き言をしゃべり続けていた。結果的に合格できたのは、親と話せてすっきりし、2日目に臨むことができたからかもしれない。

受験前夜の思い出

年が明け、キャンパス内に設置された受験会場の案内看板を見て、かつての自分を思い出した筑波大生も多いのではないかと。受験前夜の思い出を中央図書館前などで聞いた。

【寺尾優汰 比較文化学類3年】

【比文3年・女性】 防衛費増額は必要だが、増税は必要ない。増税は必要ない。増税は必要ない。増税は必要ない。

【比文2年・男性】 ロシアの軍事侵攻などもあり、防衛費増額が必要だ。増税は必要ない。増税は必要ない。増税は必要ない。

【比文3年・女性】 日本の安全保障上の危険が高まっているので、防衛費の増額も増税も仕方ない。国民が安心して生活するための負担だと考えれば、必要だ。納得できない増税ではないと感じる。

【3類1年・男性】 どちらかと言えば反対。ロシアのウクライナ侵攻により、防衛力強化の声が高まっていることは理解できるが、強引に進められた印象は否めない。

【応理1年・男性】 東アジアでの不穏な動きが高まる中、先制攻撃によって

【社工2年・男性】 群馬から親と一緒に車で来て、土浦のホテルに前泊した。過保護だとも思ったが、親とたわいもない会話をすることで、普段通りの精神状態を取り戻せた。夕食を取った後はすぐに眠ってしまった。余計な緊張をせずに済んだので、これから受験をする皆さんにもおすすめしたい。

【比文3年・男性】 推薦入試組で、2日間の日程だった。1日目の出来が悪くホテルから親に電話し、絶対落ちたと泣き言をしゃべり続けていた。結果的に合格できたのは、親と話せてすっきりし、2日目に臨むことができたからかもしれない。



イラスト=寺尾優汰 (比較文化学類3年)

太田教授(芸術系) 退職記念個展 約80作品で画業たどる

日本画家で筑波大副学長 今年度末で定年を迎え、筑波大を退職することを記念したもので、東京藝術大時代の卒業制作から最新作まで約80作品が展示された。約900人が訪れ、日本画の技法を生かして立体作品と共に行ったという思いを込めた。段ボールや和紙など絵具以外の素材をコラージュする手法は、太田教授が切り開いてきたものだ。会場では円筒形、立方体など約30点の立体作品も存在を示していた。



太田教授の作品「風の墓標II」(昨年12月24日、つくば美術館で)

も造形するなど、表現の可能性を追求してきた画業の全容をたどった。

「風の墓標I」(縦73cm、横61cm)は高知麻紙を木製パネルに貼り、岩絵具で彩色した後、薄美濃紙と呼ばれる薄い和紙をその上にコラージュした日本画だ。複雑な風の流れを和紙で表現した。

父親が急逝し、まるで風と共に去ってしまったようだったという思いを込めた。

日本美術振興会の助成(科研費)を受けて進めている日本画の表現を拡張する技法の研究の成果だ。花火の尺玉に岩絵具で彩色した球体など、まさに日本画の表現を拡張する作品が並んだ。

桐朋学園オケが公演 筑波リサイタルシリーズ

筑波大の有志学生が主催する演奏会「桐朋学園オーケストラ×つくばリサイタルシリーズ」が1月21日、つくばカピオホール(つくば市竹園)で開かれた。会場は344人の観客で満席となり、モーツァルト作曲の「ディヴェルティメント K.136(二長調)」など計3曲の熱演を奏した。

「つくばリサイタルシリーズ(TRS)」は、筑波大有志でつくる同実行委員会の主催で2012年に始まった。今回が12回目、桐朋学園大の学生らで構成するオーケストラを招いた初の

コンサート。「星のよう」に急がず、しかし休まず「アートの詩から引用したもので、35年間に及ぶ筑波大での教員生活や芸術家としての創作活動を支える言葉だった。会場には教え子たちの姿も見られた。

の学問や活動を横糸として、自分オリジナルの布を織ってほしい」と筑波大生にエールを送った。また、自身の今後については「創作活動はエンドレスで、ゴールと同時にスタートとなる。次の作品をベスト作にすべく、活動を続けたい」と語った。(衣笠有紀 写真も。12面に関連写真)



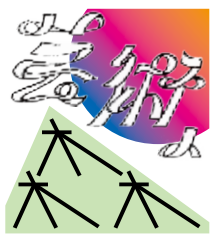
ついでに、青春時代特有の不安と葛藤を感じさせた。曲が進むと、友と将来を語り合ったり、時には激しく意見をぶつかりたりするような情景が浮かぶ。さまざまな葛藤の中、明るい未来を予感させるように曲はフィナーレに向かった。

「インカレ(大学間)企画」となった。同団体代表の松浦海斗さん(社工3年)は「今回はコロナ禍を乗り越えたいという思いを込め、学生同士で創り上げた演奏会を目指した」と語った。

公演には、同オーケストラの中から総勢17人の弦楽メンバーが出演し、世界的に活躍する指揮者でバイオリニストの清水麗輝さんが指揮した。

1曲目の「K.136」は、世界的指揮者の小澤征爾さんらに育てられた桐朋学園の故

曲はゆったりとした三連符で始まり、青春時代特有の不安と葛藤を感じさせた。曲が進むと、友と将来を語り合ったり、時には激しく意見をぶつかりたりする



筑波大ピアノ愛好会

筑波大ピアノ愛好会のウィンターコンサートが1月21日、アルスホール(つくば市吾妻)で開かれた。出演者は6人で、演奏時間も約45分の小規模な公演だったが、8分音符の形をした電子楽器「オタマトーン」とピアノの共演など個性的なプログラムがそろった。

幕開けは片岡柗人さん(生物2年)による「幻想的小品集より 作品3の「エレジー」(ラフマニノフ作曲。静まった会場で15人の観客が固唾をのむ中、重厚な低音が場の緊張感を一気に高めた。



ピアノとオタマトーンの対照的な音色が響く。高田さんが「ポップス

のようなりズム感の良さがあり、クラシックに詳しくない人にも楽しんでほしい」と語ったように、同じモチーフの旋律が形を変えて何度も繰り返され、徐々に盛り上がりつつある。

オタマトーンはピアノのように音程が固定されておらず、人の声や生物の鳴き声のような音色を奏でられる。

演奏されたのは「タイスの瞑想曲」(マスネ作曲)。元々はうっとりするような美しいメロディラインが特徴の曲だが、オタマトーンの独特な音色との組み合わせで観客からも笑いが出て、アットホームな雰囲気の中でコンサートが終了した。

オタマトーンと共演も楽しく

(数学2年)が「12の性格的練習曲 作品95」(モシエレス作曲)から「5番おとぎ話」と「10番テルツィンゴ」を披露した。「おとぎ話」は軽

やかなメロディで、「テルツィンゴ」は「踊りの楽しみ」と訳されるように速い打鍵が続いた。「フエルト・リコの思い出」(ゴットシャルク作曲)を演奏したのは高田柗人さん(資源4年)。

ゴットシャルクはショパンと同時代人を生きた作曲家で、南米などホルの民族音楽をルベスにしながらも、ロマ

音色の余韻に包まれる中、コンサートの締めくくりに登場したのが「オタマトーン」だ。電機学会を擬態した芸術ユニット「明和電機」の代表取締役社長で筑波大出身の土佐信道さんが開発した。同会で3年前に会長を務めたサウジ・トーマスさん(資源PI年)がオタマトーンを

「愛嬌あるオタマトーンのルックスと音色がピ

アノと対照的で好きだ」と話すサウジさんの狙いは、観客にしっかりと受け止められた。

石原さんも「一人であらゆる音域を演奏できる表現の幅が広がったのがピアノの魅力。いろいろな楽器とコラボすれば、その魅力が更に生きる」と手応えを感じていた。

コンサートの映像は、筑波大ピアノ愛好会のYouTubeチャンネルで順次公開される。URLは(<https://youtube.com/@tsukubaplayers>)。三橋美音(教育学科3年、写真も)

俳句 筑波大 「境内にて」 ・きぶくれの背中を追って境内に ・冬晴の下なら隣を歩いていよ ・こんなにもやはきものは冬の梅



1月24日、つくば市小田で

寒波のまった中の日に、つくば市小田を訪れた。筑波大付近からは筑波山の脇に小さく見える宝蔵山(通称小田山)が間近に迫る。小田では、つくばのシンボルである筑波山よりも宝蔵山の方が存在感がある。城跡もある古い町並みを歩いていると、境内に児童館と遊具があるのを見つけた。暦では2月4日に立春を迎え、だんだんと暖かな季節が近づいている。(鳥崎寛永(人文系3年、写真も)



『モレキュラークローニング』

私の二冊は、『モレキュラークローニング』。DNAを使って科学的に研究をする実験書である。しかし、レシビ本ではない。時計の中で働いている歯車の一つ一つを取り出してその形状や変化を眺めていても、動いている時計の中の歯車の動きは分からない。取り出した歯車に細工をして戻し、時計がどんな動きをするかを見るのが必要だ。同書は、DNAが司る生命現象の理解に画期的な「術」を与えてくれた。初版は1989年。アメリカでのポストドクを終えた先輩がマッキン

「分子生物学の定番であり、正確さと完全さで定評がある」と多くの雑誌の書評で述べられている。この本の出現によって、生物学が博物学から科学としての生物学となったと思う。

レーウェンフックは手製の顕微鏡によって目に見えない微生物がこの世に存在することを発見し、パステールは、熱で曲げた特徴的な口を持つフランスコを使って生物が何もの

中村幸治 教授 (遺伝学)



生命環境系・教授。筑波大学 院生物科学研究科修士、理学博士。2011年より現職。

今年、DNAの二重らせん構造が発表されてから70年の節目である。1953年から、10年ごとに、新しい技術が発見され、分子生物学における新しい発見がなされている。次の大発見につながる大発見が何なのか、わくわくする。

大学での栄光を胸に 新たな舞台へト 羽ばたくアスリート

スポーツの強豪校としてさまざまなアスリートたちが日々、鍛錬を積んでいる筑波大。その活躍は私たちに勇気と感動を与えてくれる。今春、卒業予定のアスリートたちに4年間の軌跡と今後の抱負を語ってもらった。(及川千翔II人文学類、川上真生、車谷郁美II社会学類、藤岡遥菜II工学システム学類)

バレーボール

垂水優芽 (体専4年)



1年時から男子バレーボール部の中心選手として活躍してきた。187センチの身長は、バレー選手としては決して高くない。しかし、国内屈指の跳躍力を持つ、攻守に頼れるアウトサイドヒッターだ。レセプション(サーブレシーブ)の正確さ、サーブ力、スパイク決定率のいずれも全日本クラスの実力を備えている。高校2年時に全日本大学



4年時のインカレ決勝でスパイクを打つ垂水

甘えなくし「勝つ集団」導く

陸上

高良彩花 (体専4年)



走幅跳で日本選手権を計3回制覇し、関東学生対校選手権(関東インカレ)は4連覇、日本学生対校選手権(日本インカレ)も2連覇するなど数々の偉業を成し遂げてきた。158センチと小柄だが、助走のスピードと体のバネを生かした踏み切りで6メートル越えのジャンプを連発する。高校時代に日本選手権を2連覇するなど、早くからトップ選手として注目を集める存在だった。大学入学後は、日本人女性初の7メートル



全日本インカレで日本歴代9位の6.50を跳び、自己ベストを更新した高良

越えに向け、当時の自己ベスト(6.44)の更新をまずは目標に掲げた。1年時の関東インカレでも早くも優勝し、2年時には日本選手権で優勝するなど結果を残してきたが、自己ベストの更新には届かなかった。3年時に日本インカレで初優勝した時が「特ス」上では女性アスリートに悔しかった」と言う。優勝記録は6.33で、自己ベストに11センチ及ばなかったが、「勝つ集団」を導く存在だ。仲間たちの存在が、切実な存在だ。悩んでいる時には率直なアドバイスをしてくれた。「頑張っているところを見てきたから大丈夫だよ」という言葉に励まされ、自らを奮い立たせた。

3年時の12月には自ら立候補して主将となり、チーム力の強化にも取り組んだ。部内向けに作成した写真付きの選手プロフィールを活用し、インカレの応援に役立てた。また、自己ベスト更新者の調査を毎月行い、選手

仲間を支えに 自己ベスト更新

特有の体形の変化を指摘する書き込みが相次いだ。そんな中、支えになったのが陸上競技部の仲間たちの存在だ。切磋琢磨しながらも、悩んでいる時には率直なアドバイスをしてくれた。「頑張っているところを見てきたから大丈夫だよ」という言葉に励まされ、自らを奮い立たせた。卒業後はアスリート社員として日本航空に入社し、筑波大を拠点に競技を続ける。当面は今年8月にアタラシ(ハンガリー)で開かれる世界選手権に出場し、活躍の舞台を世界に「ステップアップする」ことを目指す。(写真は陸上競技部提供)

テニス

阿部宏美 (体専4年)



在学中にテニスの全日本選手権を制し、学生アスリートとして制覇した。ボールに素早く反応し、強烈なリターンやスマッシュの姿を見て、「これから多岐多彩なショットを繰り返す、コートを広く使うアウトスタイルが持ち味だ。卒業後はプロ選手として世界を目指す。筑波大進学を決めたのは、「学生が自主的に練習を組み立てていることが手権に出場し、活躍の舞台を世界に「ステップアップする」ことを目指す。(写真は陸上競技部提供)



4年時のSBC Dream Tennis Tour2022でプレーする阿部

世界を目指しプロへ

ら、高校でも自分で練習メニューを考えていたため「これまでのスタイルを変えずにテニスができる場所だと考えた」と振り返る。早くも1年時には、全日本大学対抗テニス王座決定試合で筑波大を初優勝に導いた。試合はトーナメント方式の団体戦で、決勝ではシングルスとダブルスの計2試合を戦い、8時間もコートに立ち続けた。体力だけでなく精神的な強さも求められる戦いを制した。2年時には全日本学生選手権(インカレ)で単複二冠を達成して勢いに乗り、全日本学生室内選手権(室内インカレ)のダブルスでも優勝。インカレ決勝はか二スを続けることが精神的に。実は、3年生の秋にはテニスを続けることが精神的に。現地の賞金大会で優勝し、卒業後は兵庫県西宮市に移し、E.Mシステムに所属する。初めて専属のコーチを付け、フィジカル面の強化にも積極的に取り組む。目標は世界四大大会で活躍すること。全日本選手権で優勝すること。(写真は本人提供)

水球

眞板悠貴 (体専4年)



選手同士のつかみ合いの激しさから水中の格闘技と呼ばれる水球。攻撃側はボールを得てから30秒以内でシュートを打たなければならず、試合展開が早いことが特徴だ。卒業後は自ら希望し、Vリーグ部のパナソニックに所属する。東京五輪でフ

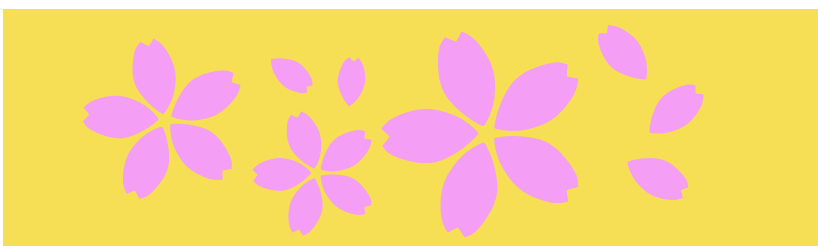


日本選手権でシュートを放つ眞板 (昨年10月7日、東京辰巳国際水泳場で) = 及川千翔撮影

れでうれしかったと話す。日本代表入りを狙えるハイレベルな環境でプレーしつつ、選手以外の進路も選択にできると思い、筑波大進学を決めた。在学中には中学・高校の教員免許も取得した。3年時の秋からキャプテンを務めた。基礎に忠実だった元キャプテン・眞板選手(令和3年度体育専門学群卒)の考え方を参考に、泳ぎ中心だった朝の練習を、各選手が自分に必要だと考えるメニューに取り組み時間に変えた。「シニアでは選手同士のぶつかり合いが激しく、体を鍛えて大きくなり、勝てない。で五輪での代表入り、試合出場を目指す」と語る。幼少期から抱く「五輪選手」の実現は目前にある。

大学院進学し 競技に還元

大学院に進学し、シュートを打つ時の下半身の使い方を研究する。一方で、社会人プロチーム「フルボーンウォーターポロクラブ」柏崎に入団して競技を続ける。「研究を練習に還元し、今年の世界選手権(福岡)や来年のパリ五輪での代表入り、試合出場を目指す」と語る。



ラグビー

木原優作(休専4年)



高校は地元福岡県の強豪・東福岡高校に進学。2、3年時に「花園」こと全国高校ラグビー大会に連続出場し、いずれもベスト4に進出した。U17(17歳以下)日本代表や高校日本代表にも選ばれ、同世代の最前線で活躍してきた。



相手のタックルを振り払う木原

ポジションは最前列でスクラムを組むプロップ(P.R)。高校時代から鍛え続ける上半身の筋力を生かし、相手選手を押し負かす。5歳から競技を始め、常にチームの中心を担う選手権出場を逃した。

「全力」で大学ベスト4

大学でも1年時からラグビー入り。関東大学対抗戦では4年時まで全ての試合に先発出場した。常にチームの中心を担う選手権出場を逃した。大学日本という目標を、チームの誰も口に出せない雰囲気になっていたという。

戦形式で覚えた技を使うなど、曜日ごとに練習の目的を明確にした。緊張感を持って練習に取り組みるようにするためだ。また、実践練習では、戦術について話し合う時間を短くした。短時間で状況を判断し、戦術を立てなければならぬ試合本番を意識した。

迎えた最終学年の大学選手権3回戦では50-22で天理大に快勝。続く東海大戦では残り3分で逆転勝利し、チームを8大会ぶりのベスト4に導いた。

競泳

飯塚千遥(休専4年)



専門種目は100メートルバタフライ。後半の追い上げが持ち味で、数々の大会で好成績を挙げた。3、4年時の日本学生選手権(インカレ)では2連覇を果たし、大学での目標の一つを生日本一を達成した。



ジャパンオープンで力泳する飯塚(昨年12月4日、東京辰巳国際水泳場で) = 及川千翔撮影

筑波大に進学したのは、スポーツ研究が盛んで、それを競技に生かせると考えたから。高校2年時の冬に筑波大の練習に参加して感じた「選手同士で声を掛け合いながら取り組むチームの一体感」も魅力だった。

つくば拠点に日本代表狙う

3年時はインカレ100メートルバタフライで同学年の池江璃花子(日本大)に初めて勝利した。「同世代は速い選手が多いが、池江選手はそこでも別格で、手の初優勝を飾った。

卒業後も、今年の世界選手権(福岡)や来年のパリ五輪など世界大会代表入りを目指して現役を続ける。拠点は変わらず筑波大だ。4年間を振り返って「筑波大で練習したからこそ結果を残せた」と話す。慣れ親しんだつくばの地で、挑戦は続く。

Hello! 先端研究



石賀康博助教

植物の葉の表面にある小さな穴が気孔だ。気孔が開閉することで、植物は大気から二酸化炭素や酸素を取り込んだり、水分を放出したりしている。ヒトに例えれば、口や鼻のような存在だ。

石賀康博助教(生環系)らの研究チームは、生物の構成成分でもあるアミノ酸をキャベツの葉に噴霧すると、キャベツが黒斑細菌病という植物の感染症にかかりにくくなることを突き止めた。アミ

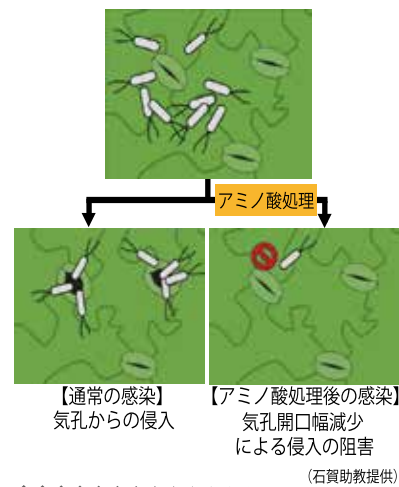
アミノ酸でキャベツの病害対策 気孔からの病原菌侵入防ぐ

黒斑細菌病はキャベツや白菜などアブラナ科の野菜の感染症だ。感染すると葉が黄色く変色したり、壊死したりして、世

ノ酸を吹きかけることで気孔の開きが小さくなり、気孔から細菌が入り込みにくくなるためだ。持続可能な農業の実現に貢献すると考えられる。

1000分の2まで、細菌が通るのに十分な大きさがある。一方、一部のアミノ酸には植物を病気に強くすることが知られていた。このため、研究チームは生物を構成するたんぱく質のものになっている20

を抑制する効果があることが分かった。アミノ酸をキャベツの葉に吹きかけ、内部に細菌を注射した時には黒斑細菌病を予防できなかったことから、アミノ酸は細菌が植物に侵入する前の段階で予防効果を発揮



【通常の感染】気孔からの侵入 【アミノ酸処理後の感染】気孔開口幅減少による侵入の阻害 (石賀助教提供)

手紙

皆さん、大学生活は楽しいですか?それとも苦痛ですか?私は20年前の3月、124単位修得が卒業条件のところ124.5単位修得して卒業しました。なぜこんなにギリギリかという



4代目ダンスのおねえさん イトウまゆさん

活動と、何より長い片道2時間15分の登下校でとにかく過酷でした。恐ろしいことに、下宿先に洗濯機がなかったため、授業の休み時間に平砂宿舎で洗濯していました。その

「筑波大卒」がオーディション切符 卒業後、今年の世界選手権(福岡)や来年のパリ五輪など世界大会代表入りを目指して現役を続ける。拠点は変わらず筑波大だ。4年間を振り返って「筑波大で練習したからこそ結果を残せた」と話す。慣れ親しんだつくばの地で、挑戦は続く。

研修施設の詳細情報

Table with 2 columns: 山中共同研修所 and 館山研修所. Rows include: 住所, アクセス, 利用料金, 客室, セミナー室, 予約方法.

(取材を基に作成)

山中湖と館山 筑波大の研修施設

民間よりお手頃に泊まれる



山中共同研修所の入り口看板。豊かな自然が出迎えてくれる = 学生生活課提供

筑波大には遠隔地に二つの研修所がある。山中共同研修所「レイクロッジヤマナカ」(山梨県南都留郡山中湖村)と館山研修所「ナミカゼ館山」(千葉県館山市)だ。誰でも宿泊でき、民間の宿泊施設よりお手頃に利用できる。サークルなどで春休みに訪れ、楽しんでみてはいかがだろうか。(久玉佳純、衣笠有紀)



北条海岸を望む館山研修所の施設 = 同施設ウェブサイトより引用

と45人収容のセミナー室があり、セミ合宿にも最適だ。現地で運営に当たる「R project」コーディネーターの奥村泰さん(65)は「季節ごとに表情を変える富士山の絶景やアウトドア体験が気軽に楽しめる。田舎のおいしいお家を訪ねるような気持ちで、私のことは『じいじ』と呼んでほしい」と語った。館山研修所は、JR館山駅から徒歩3分。道路を挟んで向かいに北条海岸が広がり、潮の香りが感じられる。毎年夏には同海岸に海水浴場が開設され、館山湾花火大会も楽しめる。セミナー室は75人収容で、椅子も机、ホワイトボードを完備。プロジェクトの貸し出しもあり、追加料金を支払えば、午前5時まで使用可能だ。LIFULL現地スタッフの鈴木隆太さんは「駅と海へのアクセスの良さが魅力。地元のリゾートを使ったり、バーベキューも味わってほしい」と語る。事前の相談で通常の食事をバーベキューに変更できる。

大学院生が宿舎デザイン 学生目線で提案

リニューアル予定の学生宿舎のアイデアなどを大学院生が提案する報告会が昨年12月19日、3C棟で行われた。全面建て替えではなく大規模改修(リノベーション)を取り入れて、環境に配慮する、「コミュニティ」の形成にもつながる食堂を設置するなど、学生目線の提案があった。学生部の担当者は「提案を吟味し、リニューアル計画に生かしたい」と応じた。報告会は、システム情報の観点から宿舎を二つのエ

工学研究群の講義「プレイング」の一環で、都市計画などを専門に学ぶ受講生30人が参加した。受講生は昨年10月の開講以来、宿舎の現地調査や在学生・卒業生に対するアンケートを実施し、基礎データを収集した。この日は、メンバーが5班に分かれ、データの分析結果も踏まえて提案を披露した。西岡遼也さん(社工P前期1年)の班は、都市計画の観点から宿舎を二つのエリアに分けた。その上で、共用部に食堂を設置し、そのそばに広場を設けることを提案した。自宅や職場とは隔離された心地良い居場所(サードプレイス)としての機能に着目した。コロナ禍によるオンライン授業の増加で、勉強と日常生活の区別が曖昧になり、「コミュニティ」への参加機会も減少したことを踏まえた。食堂はコミュニティスペースとして活用でき、広場と合わせれば、より多様な利用ができる。在学生や卒業生へのアンケートでも「共用棟にあれば利用したい施設として」「コミュニティキッチン、

「日本語、日本文化学類」の「みなさんおつくばさまです」。1月28日に5C棟で開かれた落語研究会の寄席「若手勉強会」。初高座にもかかわらず、しゃれたあいさつで聴衆の笑いを誘った。その後も、流ちょうな日本語で登場人物を演じ分け、古典落語「時そば」をよびこみく終えた。スペイン・ナバラ州出身。1年間の交換留学で昨年9月に初来日し、日本語文法や日本語教育を学んでいる。同州が位置するスペイン北部からフランス南西部にまたがる地域はバスコ地方と呼ばれ、独自の言語(バスク語)や文化

リニアに分けた。その上で、共用部に食堂を設置し、そのそばに広場を設けることを提案した。自宅や職場とは隔離された心地良い居場所(サードプレイス)としての機能に着目した。コロナ禍によるオンライン授業の増加で、勉強と日常生活の区別が曖昧になり、「コミュニティ」への参加機会も減少したことを踏まえた。食堂はコミュニティスペースとして活用でき、広場と合わせれば、より多様な利用ができる。在学生や卒業生へのアンケートでも「共用棟にあれば利用したい施設として」「コミュニティキッチン、

多彩な性的少数者をポートレートで紹介 中央図書館で写真展 性的少数者の多彩なポートレート写真を撮影するプロジェクト「OUT IN JAPAN(アウトインジャパン)」の写真展が1月10・24日に中央図書館で開かれた。同プロジェクトは、さまざまな写真家が1万人の性的少数者を撮影し、ギャラリー化するのを目指している。認定NPO法人グッド・エイジング・エルズ(事務局・東京都渋谷区松中権代表)が2015年に始めた。性的少数者を身

近存在として可視化し、さん(化学1年)は「性的少数者をテレビで見ると存在として捉えていたが、写真を見て身近に感じられる。実際にカミングアウトを受けた経験はないが、機会があればポスターに受け止めてほしい」と話した。展示会を主催したBHEの河野植之助(人間関係)は「写真と一緒にメッセージも展示することで、来場者が展示された人物一人一人の人生に触れる機会になる。性的少数者だけでなく、自分を含むすべての人が特別な存在で、多様な一部であることを感じてもらいたい」と語った。(高元愛香 12面に関連写真)

「コロナ禍で利用者減」年間利用者数(筑波大・一般)は、2018年度が山中共同研修所で28066人、館山研修所で23000人だった。だが、コロナ禍の影響で筑波大は20年2月に、宿泊を伴う課外活動自粛を学生に要請。研修施設としての利用は激減した。年間利用者数は、22年度が山中共同研修所で25人(キャンパ場利用を除く)、館山研修所で64人だった。22年7月からは、宿泊を伴う課外活動の要件が緩和(23年2月1日時点)され、度々、学生の団体利用がしやすくなった。学生生活課の菅野昭主幹は「地元自治体と連携し、研修所を拠点としたイベントなども検討している。学生の皆さんにはまず現地を訪れてほしい。そして地元自治体との連携企画など何かアイデアが浮かんだら、ぜひ相談してほしい」と語った。

「留学生の声」スペイン アスカラテ・ムエス・マルティン (日本語、日本文化学類) 「みなさんおつくばさまです」。1月28日に5C棟で開かれた落語研究会の寄席「若手勉強会」。初高座にもかかわらず、しゃれたあいさつで聴衆の笑いを誘った。その後も、流ちょうな日本語で登場人物を演じ分け、古典落語「時そば」をよびこみく終えた。スペイン・ナバラ州出身。1年間の交換留学で昨年9月に初来日し、日本語文法や日本語教育を学んでいる。同州が位置するスペイン北部からフランス南西部にまたがる地域はバスコ地方と呼ばれ、独自の言語(バスク語)や文化

「翻訳を通じ、日西の架け橋に」 歳の時、ユーチューブで、はまっていたゲームの日本語版予告を偶然見つけたのがきっかけだ。意味は全く分からなかったが、発音や文字の形の美しさに魅了された。「日本語とはどんな言語なのか。 구글翻訳を使って少しずつその意味を調べ始め、翌年から5年間は、日本人家庭教師に日本語を習った。高校卒業後は欧州で最も古い大学の一つ、サラマンカ大の翻訳図書情報学部に入学。デジタル技術なども活用した、日本語からスペイン語への翻訳手法などを学んだ。日

落語研究会での活動も積極的だ。「落語は日本の文化を学べるだけでなく、語彙の習得や会話力など日本語の総合能力を伸ばすツールとしても活用できる」と話す。会員同士の交流は、心の支えにもなっているという。将来は、日本語の翻訳や通訳、教育に携わる職業に就くことを目指している。「日本とスペインの相互理解の促進に貢献したい」と意気込んだ。(天野隼太 比較文化学類3年 写真も)

落語研究会での活動も積極的だ。「落語は日本の文化を学べるだけでなく、語彙の習得や会話力など日本語の総合能力を伸ばすツールとしても活用できる」と話す。会員同士の交流は、心の支えにもなっているという。将来は、日本語の翻訳や通訳、教育に携わる職業に就くことを目指している。「日本とスペインの相互理解の促進に貢献したい」と意気込んだ。(天野隼太 比較文化学類3年 写真も)

落語研究会での活動も積極的だ。「落語は日本の文化を学べるだけでなく、語彙の習得や会話力など日本語の総合能力を伸ばすツールとしても活用できる」と話す。会員同士の交流は、心の支えにもなっているという。将来は、日本語の翻訳や通訳、教育に携わる職業に就くことを目指している。「日本とスペインの相互理解の促進に貢献したい」と意気込んだ。(天野隼太 比較文化学類3年 写真も)



落語研究会での活動も積極的だ。「落語は日本の文化を学べるだけでなく、語彙の習得や会話力など日本語の総合能力を伸ばすツールとしても活用できる」と話す。会員同士の交流は、心の支えにもなっているという。将来は、日本語の翻訳や通訳、教育に携わる職業に就くことを目指している。「日本とスペインの相互理解の促進に貢献したい」と意気込んだ。(天野隼太 比較文化学類3年 写真も)

Who's Who?

市職員から医学の道目指す花火師

穂戸田勇一 さん (医学4年)



幼い頃から花火に彩られた人生を歩んできた。現在は医学類に在籍し、地域のかかりつけ医になることを目指す傍ら、花火を医療に生かす試みについても模索を続けている。

茨城県常総市出身。幼稚園児だった時、ぜんそくの発作で入院していた病院から見た地元「常総きぬ川花火大会」の美しさに励まされたことが原点だ。

「花火から勇気をもらった気がした」と振り返る。

現在33歳で、最初の筑波大入学生は2009年。応用理工学類で、クロロフィルという色素をがん細胞に取り込ませた後、その細胞に光を当てて死滅させるがん治療法を研究した。

当時は花火に明け暮れた。「自分で花火を打ち上げる」という夢の実現に向け、全国的

花火玉を手に笑顔を見せる穂戸田さん。本提供 学園祭の「花火を日本一の学園祭花火にする」ことを目指した。翌年には医療系の学生サークル「賢謙薬学」と一緒に、筑波大附属病院に入院する子供たちが描いた絵を花火で再現する「ゆめ花火」を企画。雙峰祭の後夜祭で実現させた。「幼稚園の時の経験から、花火で子供たちを元気づけたいと思った」という。

13年に卒業後は、常総市職員となった。大好きな「常総きぬ川花火大会」を担当した

花火と医療で地域貢献目指す

幼い頃からの夢持ち続け

いと考えてのことだ。高齢福祉課に所属しながら、花火大会の運営を担当した。

資金集めや会場整備など地道な仕事が多かった。だが、「花火に込められた花火師の心意気が見えた瞬間、全てが報われた気持ちになった」と語る。

その後、商工観光課に異動になったが、高齢福祉課で経験した地元の医師不足や末期がん患者に寄り添う医療が提供できていない現実が忘れられなかった。次第に「地域密着して活動するかかりつけ医になりたい」という気持ちが高まった。

朝は6時から勉強し、仕事を終えて帰宅後も深夜1時頃まで勉強する生活を1年間続け、19年に医学類合格をつかんだ。仕事がかえって勉強のストレスを和らげてくれた」と苦笑する。

2度目の学生生活も花火との関わりは切れなかった。花火師として山崎煙火製造所でのアルバイトを再開し、各地の花火大

会に向く生活が続けた。

だが、コロナ禍で各地の花火大会は次々に中止になった。

そうした中で関わるようになったのが、医学類学生有志が始めた「もち窒息予防プロジェクト」だ。窒息事故の啓発活動で、21年暮れには、もちやミニトマトなど喉に詰まらせやすい食品を花火にしてつくば市内から打ち上げた。資金はクラウドファンディングで集めた。

「SNS(ネット)交流サービ」で話題になり、啓発に貢献できた。喉に詰まらせたら、花火のように勢いよく吐き出させてという思いも込めたと語る。

昨年の雙峰祭では「ゆめ花火」に11年ぶりに携わった。「コロナ禍を経て企画の火が消えていないことがうれしい」。

花火と医療の二本立てで「地域への恩返しをする」ことが、これからの願いだ。

(寺尾優汰 比較文化学類3年)

次号は

4月3日(月)

発行予定です

発行所 筑波大学
印刷 リリコム

■筑波大学新聞編集部
▽編集代表 鴨志田公男
(筑波大学・教授) | サイエンスコミュニケーション
▽編集長 車谷郁実 (社会学類3年) | 副編集長 川千翔 (人文学類3年) | 天野隼太 (比較文化学類3年) | ほか編集部員16人

【編集・発行】
次いで退部する事態も起きました。▼後輩と対話すればよかったという反省をバネに、取材相手の言葉を一層真剣に受け止めた。戦争に対する考え方が異なり、「家族にも本音を話せなくなった」というロシア人留学生。試合メンバー入りを目指し「毎日、戦いに挑む気持ちで練習に通った」と話すラグビー部員……。取材して初めて知る人の思いや挑戦があまりに今年「創刊50周年」の筑波大学開学50周年の記念すべき年です。大学新聞はこれからも、皆さんの記憶に残る紙面を作っていきます。(編集長・車谷郁実 社会学類3年)

抗生物質をアニメで擬人化



感染症の専門家らの前で制作したアニメーションを発表する学生ら(2月3日、6A棟で) = 川上真生撮影

2面へ

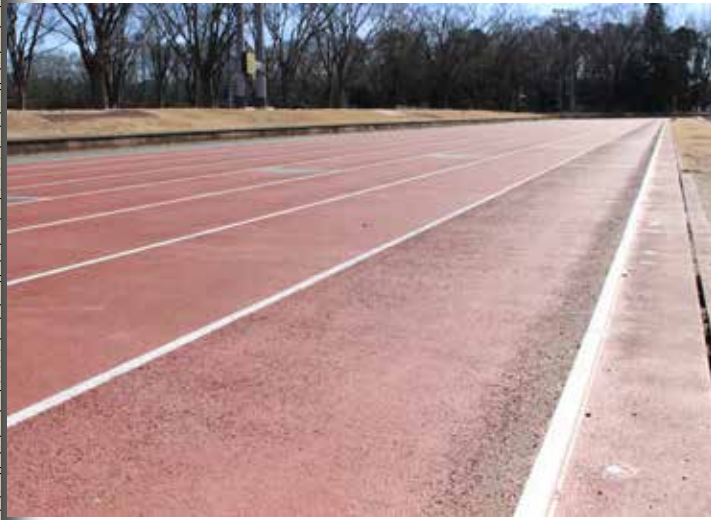
太田教授 退職記念の個展



日本画の技法を生かした太田教授の立体作品(昨年12月24日、つくば美術館で) = 衣笠有紀撮影

5面へ

改修が決まった陸上競技場



激しく傷む第1レーン(1月31日、筑波大陸上競技場で) = 加藤緑撮影

9面へ

アウトインジャパン



性的少数者の多彩なポートレートが展示された(1月24日、筑波大中央図書館で) = 嵩元愛香撮影

10面へ

学内総合

学芸

スポーツ

学生生活

編集後記

今年もはや、梅の便りを聞く季節になりました。学生生活もあっという間で、今号が編集長として担当する最後の大学新聞になります。コロナ下では、活動が十分にできない課外活動団体の現状や食堂の経営悪化などを取材してきました。実は本紙編集部も新型コロナウイルスに翻弄されました。▼週に1度の編集会議はオンライン化し、記事の修正作業もメールでのやりとりが中心になりました。後輩たちと十分にコミュニケーションが取れない中、昨年夏には2年生が相

【編集・発行】
次いで退部する事態も起きました。▼後輩と対話すればよかったという反省をバネに、取材相手の言葉を一層真剣に受け止めた。戦争に対する考え方が異なり、「家族にも本音を話せなくなった」というロシア人留学生。試合メンバー入りを目指し「毎日、戦いに挑む気持ちで練習に通った」と話すラグビー部員……。取材して初めて知る人の思いや挑戦があまりに今年「創刊50周年」の筑波大学開学50周年の記念すべき年です。大学新聞はこれからも、皆さんの記憶に残る紙面を作っていきます。(編集長・車谷郁実 社会学類3年)